

## 会議記録

会議名称	令和4年度第3回北本市行政改革推進委員会
開会及び 閉会日時	令和5年3月16日(木) 午前9時30分から午前10時30分まで
開催場所	文化センター第4会議室
議長氏名	委員長：下垣彰
出席 委員(者) 氏名	秋葉清、新井康夫、金網幾代、諏訪千加子、土屋雄一、樋口 恵子
欠席委員 (者)氏名	無し
事務局職 員職氏名	行政経営課長：福島弘行 同課事務管理担当主幹：高橋弘 同課企画調整担当主任：國友裕太
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 答申(案)について 3 その他 4 閉会
配付資料	1 答申(案) 2 意見集約

発言者	発言内容・決定事項
事務局	<p>1 開会 北本市行政改革推進委員会を開会する。 はじめに、会議の成立について確認する。「北本市行政改革推進委員会規則」第5条第2項に「委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」と規定しているが、本日は全員が出席していることから会議が成立することを報告する。</p>
事務局	<p>2 議事 (1) 答申（案）について それでは、「北本市行政改革推進委員会規則」第5条第1項に「委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる」と規定されているので、この後の会議の進行については、委員長にお願いします。</p>
委員長	<p>それでは、議事に入る。 資料1「答申（案）」に沿って確認していく。 最初に「答申に当たって」について、質疑はあるか。</p>
委員	<p>1 ページの下から3行目、“俯瞰して”という表現は、市民からすると分かりづらいのではないかと感じた。 2 ページの1行目“ロジックモデルの手法を用いて可視化し”について、図等を用いて例示した方が分かり易くなる。</p>
委員長	<p>では、“俯瞰して”は、“全体像を確認しながら”とする。ロジックモデルについては、ロジックモデルについての説明及び図を盛込むこととする。</p>
委員	<p>2 ページの下から3～4行目の“人的リソース”が分かりにくい。</p>
委員長	<p>“人的リソース”については、“職員の時間”とする。</p>
委員	<p>“PDCA マネジメントサイクル”という言葉には説明があった方がよい。</p>
委員長	<p>品質管理の世界ではよく使われている言葉だが、一般的には分かりづらいので、注釈をつける。</p>
委員	<p>1 ページ13行目の“直接費用”も分かりづらい。</p>
委員長	<p>ここは、人件費は含んでいないという意味であるが、分か</p>

発言者	発言内容・決定事項
	り易い表現とするために、事業費とする。また同じ行の“事業効果の価値”を“事業の価値”とする。
委員	1 ページ 14 行目の“事業の廃止”を“事務事業の廃止”とすべき。
委員長	そのようにする。
委員	1 ページの 22 行目“財政面でも業務面でも”の表現が回りくどいと感じた。
委員長	意味は伝わるので、“財政面でも業務面でも”を削除する。
委員	“事業の価値”は、“事業の効果”の方がいいのではないか。
委員長	単なる効果ではなく、受益者である市民からみた価値を高めるという意味で価値と表現している。
委員	ここは“価値”のままでもいいのではないか。
委員長	では、ここは“価値”のままとする。
委員	2 ページの 3 行目“行政組織は”の組織が不要ではないか。
委員長	“行政には”とする。
委員	2 ページの 4 行目“市民に価値を提供する”をもっと具体的にした方がよい。
委員長	“市民により価値の高い行政サービスを提供する”に改める。
委員	同ページ 5 行目“市民の利益や未来に向けた価値を見据え”を“未来を見据え”といった程度でよいと考える。
委員長	“市民の目線で、未来を見据え”とする。
委員長	他に意見はあるか。
委員一同	【無し】

発言者	発言内容・決定事項
委員長	「答申に当たって」については、以上とする。
委員長	「多子世帯応援恐怖金事業及び多子出産祝金事業」の答申案について、意見はあるか。
委員	3ページの1行目“多子出産を奨励し”の表現はこのままでよいだろうか。
委員長	出産を奨励でなく、多子の世帯を支援するものであることから“多子出産世帯を支援し”とする。
委員	3ページの4行目“県の補助事業である”という表現だと、県の事業のようで分かりづらい。さらに5～6行目の給付金事業、祝金事業の“事業”という言葉が不要ではないか。
委員長	“県の補助事業である”を“県の補助事業を活用した”とし、“事業”については“として”に置き換える。
委員	3ページの11～12行目について、県の事業がいつからどう変わるのか分かりづらい。
諏訪委員	令和4年度を冒頭に持ってきた方が分かり易くなると思う。
委員長	では、“県の補助事業である多子世帯応援給付金事業については、令和4年度を以て事業が廃止され、新たに子育て応援ギフト事業に移行する”を“令和4年度を以て、県の補助事業を活用した多子世帯応援給付金事業については廃止され、令和5年度から子育て応援ギフト事業に移行する”とする。
委員	14～15行目の“拡張されることが決定（1万円相当のギフト）”の決定が不要である。
委員長	“拡張され（1万円相当のギフト）”とシンプルにする。
委員	3ページの一番下の行、“原資”が分かりにくい、さらに“上乘せ”よりも統合がよい。
委員長	“原資”を“事業費”に、“上乘せ”を“統合”とする。

発言者	発言内容・決定事項
委員長	他に意見はあるか。
委員一同	【無し】
委員長	「学校教育支援事業及び学力向上推進事業」の答申案について、意見はあるか。
委員	5ページの1行目、“夫々”は、ひらがなの方がよい。
委員長	そのようにする。
委員長	5ページの下から3行目、“PDCA サイクル”について、冒頭の「答申に当たって」では、“PDCA マネジメントサイクル”となっているが統一すべきではないか。用語としてはどちらの表現もよく用いられるものである。
事務局	市が導入している行政経営システムにおいては“PDCA マネジメントサイクル”という表現で統一している。
委員長	冒頭の「答申に当たって」の項では、全体の仕組みを、5ページでは、個々の取組みを対象としていることから、このままとする。
委員	5ページの3段落全体の中に、“施策”という言葉が多く出てくるが、市の総合計画における施策の位置付けは、事務事業の上位の体系に位置付けられているものであることから混同して分かりにくい。
委員	“制度”という言葉ではどうか。
委員長	制度というともう少し全体の大きいものを表すように感じる。前回の委員会で事務事業の単位をもう少し細かくみていこうという話になったが、この単位をどのように呼ぶのが妥当か。
委員	“手法”ではどうか。
委員長	手法だとやり方といった意味になるので、少し異なるように感じる。手段の方が妥当かもしれない。
事務局	事業の単位を施策と呼ぶこと自体は、一般的な用語としての使い方に間違いはないが、自治体では、総合計画における

発言者	発言内容・決定事項
	<p>体系として、「政策→施策→基本事業→事務事業」といった形になっていることが多い。そのため、事業の単位を施策と呼ぶと紛らわしいのは確かである。よって、単位については、例えば“取組み”と呼ぶのはどうか。</p>
委員長	<p>では、総合計画における体系図を示し、事業の単位については、“取組み”として、全体を分かり易くする。</p>
委員	<p>5ページの下から5～6行目“実現を阻害する要因に対する改善課題、施策を検討する”について、実現するための新たな取組みを検討すると打ち出した方が、前段との繋がりが明確になる。</p>
委員長	<p>現状だと表現が長く分かりにくいので“その実現のための取組みを検討する”とする。</p>
委員長	<p>他に意見はあるか。</p>
委員一同	<p>【無し】</p>
委員長	<p>本日審議した内容を踏まえ、事務局と修正、調整したうえで、市長に答申する方向でよいか。</p>
委員一同	<p>【異議無し】</p>
事務局	<p>3 その他 その他、意見等あるか。</p>
委員一同	<p>【質問無し】</p> <p>4 閉会</p>
以上	

議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。

令和 5 年 3 月 23 日 委員長 下垣 彰